



SPECIAL REPORT

週報別冊特別版

創設会員手記

「福岡北RCでの33年間、
そして今クラブに思うこと」

岩崎 明弘



福岡北ロータリークラブ 岩崎 明弘



数名の新聞記者から「ライオンズの奉仕活動はよくわかるが、ロータリーが何をやる場所か。どんな活動をしているのか全く見えない。自分が知る限りでは、毎週一回、お偉いさんが黒塗りの車に乗って、有名ホテルへ出かけて食事をして帰ってくるようだが、そんなことされると交通渋滞の原因となり迷惑千万だ」という趣旨の厳しい批判と指摘がなされました。

ロータリーについて全く知識がなく、職員や妻などからロータリーについて聞かれ、答えられなかった私も少なからず、新聞記者と同じような疑問を持つていました。痛烈な批判を受けた私は、あたかも愚妻であることが判っていても他人から批判されると腹立たしく思うのと同じように、ロータリアンとして悔しくてたまりませんでした。

ベテランの地区委員が詳しく説明し記者共の極端な偏見に対し、納得させてくれるものと期待していましたが、残念ながら誰からも説明がなく、座は白け沈黙が続きました。私は一層、悔しくなり、いたたまれず、手を挙げ無い知恵を絞ってロータリーとは・・・と一生懸命ロータリーを弁護したのですが・・・

地区大会も無事に終わり、ロータリーについて少しは知っておかなければと思い、千種会というロータリーの研修会に参加しました。そこで僅かながらロータリーのことを解るようになり、他の団体に無いロータリーだけの魅力を知ることができ、ロータリアンであることに誇りを持つてるようになりました。千種会では、他クラブの多くの人と出会い多くのことを学ぶことができ、大きな財産を得ることができました。

今、振り返ってみると西鉄GHで新聞記者に対して説明した私の弁護がいかに的外れでチンプンカンプンであったことが解り、赤面の至りで反省すると同時に、今だったらと思いいかぎりです。

今、クラブに思うこと

北クラブは、親睦が充実し、それを基に奉仕活動も活発です。親睦と奉仕については、ロータリーバッチを例によく言われているように「**先ず親睦のギアを回転させてから、その余力で奉仕のギアを回す**」という理想的な型になっていると思います。

北クラブでよかった

再三の入会勧誘を断りきれず、昭和五十八年春、福岡城西クラブへ入会することにした。ところが、三カ月位経っても城西クラブから何の通知もなく、すっかり忘れていた頃「新しく作る子クラブの福岡北クラブというところに回してもらおう事になった」という連絡が有り、訳がわからないまま、変な奇縁で北クラブの会員となってしまう。

入会してみたら

当初はもともと入会に積極的でなく、クラブが所謂、縦型の人的関係で運営されているような雰囲気馴染めず、そのうち退会しようと思ひ、徒に意味のないロータリーの生活を繰り返してきました。

ロータリーに対する考えの変化

入会して、十三年目を迎えた時、北クラブが2700地区の地区大会ホストクラブを引き受けることになり、その準備の大会実行委員長に葉山さんが就任され、微力ながら私が幹事を命じられ、大会の成功に向け、森本事務局長、貞弘副幹事や各委員から助けられ、全会員が心を一つにして協力し、無事に成し遂げた事が今では、いい思い出となっています。

ある時、その年のガバナ―松田尊文さん(東RC)から西鉄グランドホテルで地区の広報委員会と市内のマスコミ各社との懇談会が開かれるので、出席して地区大会のPRをするようにと言われて出席しました。PRをする機会を待っていたところ、

Akihiro Iwasaki Profile	
生年月日	1936年10月22日
福岡北ロータリークラブ 入会年月日	1983年6月3日
座右の銘 (又は好きな言葉)	「法は徳を以て全うする」「先義後利」
尊敬する人 (又は人生の恩人)	鶴田英夫弁護士(私の恩師)
趣味	ゴルフ 読書(中国の政治、経済関連本)
思い出の映画 (出来ればその理由)	慕情 (学生時代、彼女と2人で見た)
思い出の音楽 (出来ればその理由)	軍艦マーチ (魂が揺さ振られる)
思い出の場所 (出来ればその理由)	井の頭公園
好きな花	コスモス

本年度、金納会長のテーマ「親睦を深め奉仕の輪を広げよう」はそのことを云っておられると思います。ロータリーに対する思いや、接し方は各人の職業上の立場や個人的事情で異なり、当然違って然るべきだと思います。私は、ロータリーは「**横並びの原則**」で平等と思ひ三十五年間を過ごしてきました。その間、これまで、北クラブの皆さんから育てられたと思つて感謝しています。

今は、北クラブの平均年齢を上昇させるだけで何の役にも立ちませんが、もう暫くお付き合い頂きたいと思つています。



『慕情』は、1955年に公開されたアメリカ映画。…あらずじ…第二次大戦終了後のイギリスの植民地の香港で、ヒロインのハン・スーインは勤務医をしている。夫は中国国民党の将校で国共内戦で戦死していた。そこで、アメリカ人の特派員マーク・エリオットと知り合い、二人は恋に落ちる。しかしエリオットは別居中の妻がシンガポールにおり、離婚の話し合いのためシンガポールへ行くがうまくいかず、二人の関係は香港で噂となる。間もなく中国大陸の殆どの地域は国共内戦の末に中国共産党率いる中華人民共和国が支配するようになり、ハン・スーインは中国大陸へ戻るよう説得されるが、ほどなく朝鮮戦争が起これ、エリオットは派遣され、そこで戦死する。